

令和2年度 文京区立林町小学校 授業改善推進プラン

算数

	指導上の課題の分析	指導のめあて	授業改善の視点	評価（成果と課題）
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前学年までの学習を概ね習得できており、友達と進んで交流できる児童が多い。 ・ 違う解法を考えたり、学んだことを活用したりする体験はまだ少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎を確実に習得させる。 ・ 自分の考えを他者に伝える力を伸ばす。 ・ 考えを広げ、活用する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童どうしが「なぜそのように考えたのか」を相手の立場で考え、説明し合うことで、様々な考えに気付き広げる指導をする。 ・ 図、絵、式、文章などを使い、自分の考えをよりわかりやすく伝えるときに、全体で発表する際のポイントも指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元によって、既習の学習を繰り返し行い、基礎学習を身につけるようにした。 ・ 自分の考えをクラスの児童へ説明することで、算数的思考を深めた。 ・ 得意な児童が苦手な児童へ教える姿が見られた。 ・ 算数学習への意欲が見られる児童が多かったため、今後も興味関心をひく学習材を準備して、その姿勢の継続を促す。

4 年	<ul style="list-style-type: none"> 前学年までの学習の定着度合いが、個によって異なる。 算数が好きで意欲的な児童が積極的に発言したり説明したりするので、全体的に活発な印象を受ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎を確実に習得させる。 自分の考えを他者に伝える力を伸ばす。 考えを広げ、活用する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 図、絵、式、文章などを使って自分の考えを効果的に表現するとともに、算数の用語を用い、全体で発表する際のポイントも指導していく。 児童どうしが「なぜそのように考えたのか」を相手の立場で考え、説明し合うことで学び合い、表現力を磨けるよう指導をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 式や図、表の見取り等を使って、考えを述べていた。概ね、相手意識をもって、説明していたが、まだ自分のみが分かる説明の児童もいた。 児童同士が互いの意見に反応できるようになってきた。 思考力、表現力と少しずつ身につけているが、うまく説明できない時にはどうしたらよいか、解決の部分で考え方がもてるように、より多くの支援が必要である。
5 年	<ul style="list-style-type: none"> 概ね既習事項を身に付けているが、学年が上がり、複雑な考えや抽象的な考えに苦手意識をもっている児童も見られる。 和気あいあいとした学 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎を確実に習得させる。 自分の考えを他者に伝える力を伸ばす。 考えを広げ、活用する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元間のつながりを意識して既習事項を復習し、積極的につまづきを解消する。 自分が問題を解けたことで満足するのではなく、協力して様々な解法を考えたり、相手の考えを代弁したり 	<ul style="list-style-type: none"> 挙手に関して、全体的に消極的ではあるが、単元によっては徐々に発言の回数も増え、自分の考えも表現できるようになった。 わからない問題にも教師に質問や友達と相談することで、そのままにせず積極的に取り組む姿

	<p>年の雰囲気があり、教員や児童の説明には、顔を向けて聞く姿勢が見られる。</p>		<p>する活動等を通して、学び合い、違いを尊重する姿勢を育む。</p>	<p>も見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自力解決の場面で、難しい問題等、悩んだ時に複数の考えがもてるように、考える際の手立てを伝え、より深く理解できるようにしたい。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項の習得が不十分な児童と、塾通い等で学習が先行している児童の二極化が見られる。 ・図、絵、式、文などで自分の考えをまとめることができる一方で、聞き手にわかりやすく伝える意識がやや不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎を確実に習得させる。 ・自分の考えを他者に伝える力を伸ばす。 ・考えを広げ、活用する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元間のつながりを意識して既習事項を復習し、積極的につまづきを解消する。 ・算数の用語を用い、全体で発表する際のポイントを指導していく。 ・自力解決→全体での練り上げの過程で、友達同士の教え合いにより、解決へのヒントが見つけれられるよう、時間配分する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項で忘れていたこともあったので、復習問題などプリントを活用して解決した。 ・また、意欲にムラがあるので学習材や提示方法、補助資料等教師の授業の工夫が必要である。 ・習熟度の高い児童に対して、学習の進度を踏まえた発展的な課題の設定が必要である。